

## 設楽ダム連続公開講座

## とよがわ流域県民セミナー

## 第7回 開催計画（案）

担当：富永・蔵治

## 1. テーマ

## 「流水の正常な機能の維持のための手段とは」

設楽ダム建設目的の一つとして、「流水の正常な機能の維持」があり、そのための貯留容量は最大 6000 万  $m^3$  で、全貯留容量の 65% を占めています。設楽ダムにより、渇水時における河川流量について、河川整備計画に定めた「利水上の制限流量」を適正に運用することによって、牟呂松原頭首工において毎秒約  $2m^3$  から約  $5m^3$  に、大野頭首工においてゼロから毎秒約  $1.3m^3$  といった流量増加が可能になるとされています。また既得用水の利水の安定化について、これまでの実績利水安全度約 1/4 を 1/10 に向上させ、安定した利水が可能となるとされています。

「流水の正常な機能」というと、河川・沿岸域の生物のための水、というイメージがありますが、河川整備基本方針で定める「正常流量」は「維持流量」と「水利流量」からなり、「維持流量」とは生物や漁業だけでなく、景観、観光、水質、塩害防止、河口閉塞防止、舟運など様々な「機能」を包括した言葉です。

渇水は、何年に一度かの割合で必ず襲来し、避けられない自然現象です。渇水時の限られた水を、通常時と同じペースで人間が使い尽くせば、流水はたちまち枯渇し、生物に悪影響が及ぶでしょう。仮にダムを建設しても、極端な渇水時には枯渇しますので、人間の利便性の追求のための水と河川・沿岸域の動植物の生息域保全との間で折り合いをつける仕組みが必要であることに変わりはありません。

本セミナーでは、豊川における正常流量、利水上の制限流量の根拠や、流水の正常な機能の維持により利水安全度が向上するにもかかわらず、受益者である利水者の負担が発生しない理由についての説明を受け、その上で、渇水時に人間の利便性の追求のための水と、河川・沿岸域の生物のための水との間で折り合いをつけるための仕組みとして、これまで矢作川で行われてきた方式と、米国で試行されている方式について学び、豊川の渇水時において、人間の利便性の追求と、河川・沿岸域の生物生息域の保全の両立のための方策や、その手段の一つとして、設楽ダムに「流水の正常な機能の維持」のための貯留容量を 6000 万  $m^3$  確保することの必要性について学習することを目的とします。

## 2. 開催概要

日 時： 2013年10月14日（月・祝） 午後1時から午後4時半まで

場 所： 愛知県西三河総合庁舎 大会議室（名鉄東岡崎駅から徒歩5分）

内 容：

講師1： 豊川における正常流量、利水上の制限流量の根拠、流水の正常な機能の維持により利水安全度が向上するにもかかわらず、受益者である利水者の負担が発生しない理由、矢作川における渇水時の対応について

講師2： カリフォルニア水銀行における生態系のための水確保の仕組みと実績

休憩・質問票記入

質疑応答・ディスカッション